

## ■ 社会とのかかわり

### 地域との連携に関する基本的な考え方

東日本エリア、そして日本が元気であることが、JR東日本グループの存立基盤です。鉄道という社会インフラを担う企業として、かつ地域の一員として、地域と一緒に、地域のあるべき未来を考え行動していきます。また、「当社グループだからできる」地域活性化策や観光振興策を精力的に実行するとともに、「駅を中心とした魅力あるまちづくり」を推進します。

### 地域社会とともに

JR東日本では、これまで取り組んできた「ステーションルネッサンス」をより進化させ、「選ばれる沿線ブランドづくり」として、地域社会の一員として、地域の皆さまとともにあるべき未来を考え、元気な地域の構築へと取り組んでいます。

東京駅では、丸の内側は東京駅丸の内駅舎保存・復原が完成し、八重洲側は「グラントウキョウノースタワー/サウスタワー」、「グランルーフ」に続き、2014年秋に八重洲口駅前広場が完成しました。「東京駅が、街になる」をコンセプトに「東京ステーションシティ」と名づけ、首都東京の玄関口にふさわしい、新しい文化の発信地としてのまちづくりをめざしています。

中央線では、「選ばれる沿線ブランドづくり」をめざして、連続立体交差事業を契機に、三鷹～立川駅間の高架下空間を活用した中央ラインモールプロジェクトを推進しています。「緑×人×街 つながる」をコンセプトに、駅という「点」だけではなく、ひとつの路線とその沿線を一体として捉えた「線」や「面」の開発を推進し、住みたいと思っただけの沿線づくりを行っています。

さらに、地方自治体等からの要望に基づき、まちづくりにあわせた新駅設置、自由通路設置等に伴う駅舎整備等を自治体と協力して進めています。2014年度には、奥羽本線に天童南駅（新駅）を設置したほか、北陸新幹線・飯山線の飯山駅に観光案内所等（自治体施設）を併設した駅舎整備を行いました。その結果、1987年の会社発足より自治体施設を併設した駅は、86駅（2015年3月31日現在）になりました。また、2014年度には、東北本線片岡駅、内房線袖ヶ浦駅、成田線小林駅や越後線内野駅において自由通路設置に伴う駅改良を行いました。



東京駅八重洲口駅前広場



奥羽本線天童南駅



成田線小林駅自由通路



nonowa国立

### 移住促進プログラムへの参画

「グループ経営構想V」において、地域の活性化に貢献するとともに、新たな交流人口を生み出すことを目的として、自治体の進める移住促進プログラムへのサポートに取り組んでいます。長野県、青森県、富山県、石川県と移住・交流促進のために連携しています。

### 移住セミナー・移住お試しツアー

移住前の不安を解消するために、首都圏での移住に関するセミナーや実際に現地を体験していただくための視察旅行を実施。自治体のコンテンツ（居住環境の現地説明会、農業体験等）と新幹線等を組みあわせ、JR東日本の保有する宣伝媒体（会員誌、ホームページ等）・販路を活用して移住施策をサポートします。

### 移住後の移動サポート

移住後も気軽に首都圏へお出掛けいただけるよう、移住先の佐久平～首都圏間の移動をサポートするサービスを2014年12月にスタートしました。

### グループを活用したサポートメニューの検討

ショートステイや移住後に課題となるモビリティ面での支援メニューとして、大人の休日倶楽部会員向け長期レンタカー割引プランなどグループ力を活用したサポート内容を提供しています。



移住お試しツアー

### 鉄道の立体交差化によるまちづくり・交通円滑化への貢献

交通渋滞の解消、鉄道・道路それぞれの安全性の向上を図るとともに、鉄道により隔てられている街の一体的な発展を図るため、沿線自治体により計画・実施されている南武線稲城長沼駅付近や信越線新潟駅付近等の立体交差事業に当社も協力しています。

南武線稲城長沼駅付近連続立体交差事業では、2013年12月に高架上り線切換を実施したことによって事業区間全15踏切を廃止しています。信越線新潟駅付近高架化事業では、2014年11月に仮線への線路切換え工事を終え、現在は本体の工事を進めています。当社もこれらの事業に協力することで、交通渋滞の解消、街の一体化が図られ、まちづくりや交通円滑化を通じて地域の発展に貢献しています。



南武線稲城長沼駅付近高架化



信越線新潟駅付近高架化

### 駅の交通結節機能の充実・高度化による総合交通体系の整備

駅はさまざまな交通施設が集中し、大勢の人が集まります。都市交通の円滑化や交通結節点としての機能強化を図るため、国や関係自治体と連携して、他の交通機関との相互直通運転や乗り換え利便性の向上を推進しています。新宿駅では、国土交通省と連携のうえ、線路上空に人工地盤を構築し、バス発着場やタクシー乗降場等、交通結節点としての施設整備を行い、総合交通体系の整備に貢献しています。

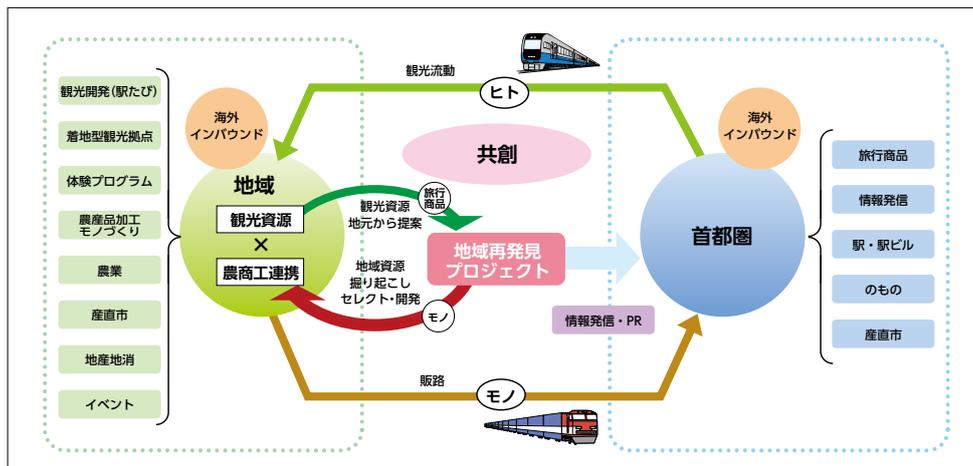


新宿交通結節点整備

## 地域再発見プロジェクト

### 「地域再発見プロジェクト」の展開

地域との連携を強化する「共創」戦略のもと、首都圏と地域の間で大きな「ヒト・モノ」の循環を生み出し、インバウンドも見据えた新たなマーケットを創造することをめざす「地域再発見プロジェクト」を推進しています。これは、JR東日本グループが有する地域と地域を結ぶ鉄道ネットワークや地域の拠点としての駅、幅広い事業ノウハウ、首都圏を中心とした販路・広告媒体、地域の一員としての人材といった強みを活かしながら、首都圏と地域の双方向での情報発信や販路の拡大、伝統文化、祭り、地産品といった有形無形の観光資源の発掘と紹介などを行うものです。



「地域再発見プロジェクト」概念図

首都圏においては、地産品の需要拡大を中心とした取組みを行っています。デスティネーションキャンペーン等の営業施策と連動して地産品販売と観光PRを行う「地域再発見プロジェクト 産直市」を上野駅で開催しています。上野駅(2012年1月)、秋葉原駅(2014年3月)に、東日本の食を中心とした情報発信型の地産品ショップ「のもの」をオープンし、「旬のもの、地のもの、縁(ゆかり)のもの」をコンセプトに各地の地産品を販売しています。これらを通じ、各地域の方々と連携した情報発信に取り組んでいます。地産品の需要拡大の取組みについては、JR東日本エリアの各地でもさまざまな取組みがなされており、2014年度はグループ全体で延べ3,477日の産直市が開催され、地域活性化のイベントも多数開催されました。

地域においては、地域の魅力ある農作物等の素材と優れた加工技術を組みあわせ、6次産業化に向けたものづくりを推進しています。2010年12月には青森駅前に県産りんごを発泡性果実酒「シードル」等に加工する「工房」と地元産の農産物等を提供する「マルシェ(市場)」の複合施設「A-FACTORY」を開業しました。ここで加工した商品はグループのネットワークを活かし、地元はもちろん、首都圏へも販路を拡大しています。あわせてさまざまなイベントなどを通じ、地域の方々との連携を深め地域活性化に取り組んでいます。

今後は、地域の魅力を伝える「産直市」や「マルシェ」の開催拡大や、農林漁業の6次産業化の推進などを通じて、さらなる地域産業の活性化に取り組んでいきます。



地域再発見プロジェクト「産直市」



地産品ショップ「のもの」秋葉原店

## 子育て支援事業「HAPPY CHILD PROJECT」

JR東日本グループでは、「HAPPY CHILD PROJECT」を掲げ、子育てしやすい暮らしやすい沿線づくりを推進しています。具体的には、社会インフラとなる駅型保育園などの子育て支援施設や、地域コミュニティの形成を応援することを意図した親子コミュニティカフェの開設、親子で楽しめるイベント開催などを進めています。

今後も子育てにまつわるさまざまなニーズに対応し、地域社会への貢献・沿線価値の向上に積極的に取り組んでいきます。

### 子育て支援施設 ～“子育てをしながら働く”を応援～

駅から概ね5分のアクセスの良い立地を中心に「駅型保育園」等の子育て支援施設の開設を進め「仕事」と「子育て」の両立を応援しています。1996年から開設した子育て支援施設は累計で82箇所(2015年4月現在)に達しており、今後もさらなる拡大をめざしています。「駅型保育園」では通勤途中に送迎ができるメリットに加え、父親と登園する子どもも多く見られ、当社の取組みは男性の育児参加の支援にもつながっています。



新幹線沿線の駅型保育園  
(太子堂すいせん保育所)



駅ビルの屋上庭園で遊ぶ園児たち  
(Jキッズルミネ北千住保育所)

### 外出応援施設「親子コミュニティカフェ」

親子が気軽に利用でき、安心して過ごせる憩いの空間を提供するため、「親子コミュニティカフェ」の取組みを進めています。「親子コミュニティカフェ」では、家族が快適に過ごすための機能・サービスを集約し、子育て中の家族はもちろん、世代を超えて地域の方々が集い、交流できる場を提供します。

JR東日本の進める親子コミュニティカフェの総称を「キズナ937」と言います。現在は高崎線籠原駅前「イーサイト籠原」2階で展開しています。

### 子育て応援イベント開催

#### こども鉄道作品展

当社の駅型保育園に通う子どもたちによる作品展を、鉄道博物館(埼玉県さいたま市)で定期的で開催しています。

「でんしゃ」というテーマのもと、子どもたちが制作した独創的で、夢のある作品を多くの方に楽しんでいただいています。保育園の日頃の保育活動の発表の場、また子どもたちの成長を確認していただく場にもなっています。



第6回こども鉄道作品展

## ペーパークラフト教室

新幹線などの立体模型を専用用紙から制作する「ペーパークラフト教室」など、親子で一緒に参加できるさまざまなイベントを各所で開催しています。



ペーパークラフト完成イメージ

## 出前授業による環境教育の展開

JR東日本では、持続可能な社会づくりに貢献するため、次代を担う子どもたちに対し、「環境問題」や「社会とのつながり」を理解してもらうための環境教育プログラムを2009年度からスタートしました。同プログラムは鉄道を題材に環境や暮らしについて理解していただくことを目的とし、2014年度は、当社エリアの小学校を中心に54校実施しました。2013年度からは、主に各地域で働く社員が直接学校へ出向き、授業を実施しています。今後も、引き続き取組みを進めていく予定です。

### 出前授業担当者一覧



※2015年7月1日現在。エリア名は、当社内での名称です。

## 文化

### 鉄道文化財団

JR東日本の経営資源を継続的に社会貢献活動に役立てるため、1992年に財団法人東日本鉄道文化財団を設立(2010年4月に公益財団法人化)し、鉄道を通じた地域文化の振興、鉄道に関する調査・研究の促進、鉄道にかかわる国際文化交流の推進等に取り組んでいます。主な活動内容は、鉄道博物館・東京ステーションギャラリー・旧新橋停車場・旧万世橋駅の運営、地方文化事業支援、アジア各国の鉄道事業者の研修受け入れなどであり、ホームページ(<http://www.ejrcf.or.jp/>)等で情報発信を行っています。

### 鉄道博物館

①鉄道にかかわる遺産・資料の調査研究を体系的に行う「鉄道博物館」、②実物を中心とした展示により鉄道の歴史を語る「歴史博物館」、③鉄道の原理・仕組みや技術について体験的に学習できる「教育博物館」の3点をコンセプトに2007年10月14日(鉄道の日)に埼玉県さいたま市にオープンしました。以来、多くのお客さま(2014年度は約80万人)にご来館いただいています。今後、2017年10月の開館10周年にあわせ、館内のリニューアルや新館の建設を計画しています。



鉄道博物館

## 次代の担い手とともに

### 鉄道少年団

公益財団法人交通道德協会が運営する「鉄道少年団」では、青少年へ向けた交通道德の高揚を目的として、全国で約1,000名の団員が多彩な活動を行っています。当社管内には約400名の団員が在籍しており、この活動をサポートするため、各支社に事務局を設置し、駅の清掃活動や各種鉄道施設の見学といった活動を通じて、次世代の交通道德の向上に資するよう、積極的な支援を続けていきます。

## 国際

### 国際協力

JR東日本では、国土交通省や国際協力機構(JICA)等の要請や依頼に基づき、アジアの国々へ鉄道の専門家を派遣し、日本で培ってきた技術やノウハウを紹介したり、開発途上国から研修生を受け入れて専門分野の講義等を行ったりするなど、国際協力の取組みを展開しています。

また、JR東日本は海外の鉄道関係者の視察等も積極的に受け入れており、2014年度に当社を訪問した海外からの視察者は49カ国、約1,300名に達しています。これらの視察者には、各国の政府関係者や鉄道関係者のほか、海外の大学や研究機関の研究者なども含まれており、相互理解の促進にも役立っています。



海外鉄道事業者向けの研修(秋田支社)



各国大使館職員による視察  
(新幹線総合車両センター)

### 国際機関を通じた世界への貢献

JR東日本は、加盟する国際鉄道連合(UIC)や国際公共鉄道連合(UITP)、欧州鉄道会社共同体(CER)、米国鉄道協会(AAR)、米国公共輸送協会(APTA)等の鉄道国際機関が主催する国際会議や発行する出版物等を通じて、積極的に情報収集・発信を行っているほか、2013年1月からUICアジア太平洋地域議長、また2015年6月からUITP会長を務めるなど、世界の鉄道の発展、並びにさまざまな課題の解決に積極的に取り組んでいます。

また、海外の鉄道関係者に日本の鉄道システムの特長をアピールするため、海外における展示会、セミナー等への出展や国際会議の誘致にも意欲的に取り組んでおり、2014年9月には、世界最大の鉄道見本市「イノトランス」に出展したほか、2015年7月にはUICとの共催により、高速鉄道に特化した国際会議・展示会としては世界最大規模を誇る「UIC世界高速鉄道会議」を東京で開催し、1,200名を超える鉄道関係者に参加いただきました。



2015年7月 第9回UIC世界高速鉄道会議(東京)



2014年9月 イノトランス出展  
(ドイツ・ベルリン)